

—— プレートにみる憧れの生活シーンと衣服 ——

共立女大家政 ○三浦 正子 伊藤 紀之

目的 本誌は第一次世界大戦直前の約2年間、パリで発刊されたファッション誌である。この資料に含まれるファッション・プレートと解説を通して、20世紀初頭のパリを中心とした人々の憧れの生活シーンとファッションの動向を考察する。

方法 全79巻、合計186枚のプレートに表現された図像と解説、及び関連文献を通して当時の生活や文化との関わりを考察する。

結果 本誌は当時の芸術、文化の中心人物たちによってつくられた質の高い情報で、単に服装だけではなく、当時の人々の憧れていた生活を示すものである。

最も多く描写されていたのは野外のシーンであった。収穫風景、犬の散歩、外出シーン、ハイキングのプレートも見られる。中でもスポーツのシーンは、テニス、ゴルフ、スキー、乗馬、狩猟など多岐にわたる。憧れのバカンスを連想させる海水浴や船上の光景もある。背景には当時の科学技術の進歩を象徴するように自動車やヨットが見られる。

また、プレートには1日の中のさまざまな生活シーンが服装と共に描写されていた。家庭でのだんらん、鳥に餌を与える姿、身仕度や化粧のシーン、食事風景、ナイトウエアや部屋着も提案されている。若い女性だけではなく子供や男性も登場する。子供のための装いは現代のものにかなり近い。さらに、当時の華やいた社交界の人々を描写したものも多く、人気を博したバレエ、歌劇、タンゴを踊るシーン、酒場の光景がある。

以上のような憧れのシーンには、現実に近いものから夢のようなものまでが認められるが、同時にアール・デコの始まり、現代の衣服の原型を見ることができる。